

■第1回(1~8巻)収録内容

巻	ジャンル	収録書	作者等	年代
1巻	女性百科	女芸文三才図会 (おんなげいぶんさんさいずえ)	鳥飼醉雅 (とりがいすいが) 編	天保12年 1841
2巻	女子教訓	女要訓和歌文庫 (おんなようくんわかぶんこ) 女学則 (おんながくそく)	桃江舎漁舟 (とうこうしゃぎよしゆう) 編 鳥飼醉雅 (とりがいすいが) 作	寛保3年 1743 明和2年 1765
3巻	語彙	万宝女節用器粟囊 (ばんぼうおんなせつようけしぶくろ) 女節用文字囊 (おんなせつようもじぶくろ)	山本序周 (やまもとじよしゆう) 編 山本序周 (やまもとじよしゆう) 編	享保6年 1721 宝暦12年 1762
4巻	女子教訓	〈婦人教訓〉女今川以呂波文 (おんないまがわいろはぶみ) 〈稚児教訓〉女九九乃声 (おんなくくのこえ) 〈女古状揃〉女今川園生竹 (おんないまがわそのうのたけ)	北尾辰信 (きたおときのぶ) 作 大江文坡 (おおえぶんば) 作 高井蘭山 (たかいらんざん) 作	明和3年 1766 天明7年 1787 文政5年 1822
5巻	風俗・遊女	漫画百女 (まんがひゃくじよ) 花街漫録 (かがいまんろく) 高尾年代記 (たかおねんだいき)	合川珉和 (あいかわみんわ) 画 西村藐庵 (にしむらみやくあん) 作 柳亭種彦 (りゅうていいたねひこ) 作	文化11年 1814 文政8年 1825 嘉永2年 1849
6巻	諸芸	当流謡指南抄 (とうりゅううたいしなんしやう) 本朝茶経 (ほんちょうちゃきやう) 蜀山人狂歌図絵 (しよくさんじんきやうかずえ) 俳諧図会 (はいかいずえ)	(作者未詳) 竹村一玄 (たけむらいちげん) 作 大田南畝 (おおたなんぼ) 作 松亭金水 (しょうていきんすい) 作	元禄9年 1696 文化4年 1807 安政5年 1858 江戸後期 ——
7巻	暦占	天竺靈感観音籤 (てんじくれいかんかんのんせん) 人相小鑑大全 (にんそうこかがみだいぜん) 人相早見伝 (にんそうはやみでん)	三笠軒一任子 (さんりゅうけんいちにんし) 作 喜多村江南軒 (きたむらこうなんけん) 作 系田川翁 (けいでんせんおう) 作	寛文2年 1662 貞享1年 1684 弘化4年 1847
8巻	遊戯	秘事百撰(前編) (ひじひやくせん) 秘事百撰(後編) (ひじひやくせん) 身振りいろは芸 (みぶりいろはげい) 〈酒席一興〉手妻早伝授 (てつまはやでんじゆ) 新法狂字図句画 (しんぼうきやうじずくえ)	福井智徳斎 (ふくいちとくさい) 作 福井智徳斎 (ふくいちとくさい) 作 東西庵南北 (とうざいあんなんぼく) 作 十方舎一丸 (じつぽうしゃいちまる) 作 万亭応賀 (まんでいおうが) 作	文政10年 1827 弘化4年 1847 文政12年 1829 嘉永2年 1849 江戸後期 ——

■第1回(1~8巻)総2760頁、揃定価(本体95,000円+税)、分売不可 ISBN978-4-283-01002-4



■女中物食うべき時心得の事——おかずを続けて二箸、三箸食べる「移り箸」、端から順番に片付ける「男食い」、口中に箸を押し入れる「頬箸食い」、口に物を含みながら話す「口開け食い」などを戒める。(『女芸文三才図会』)



■ 行灯の化け物を出す伝——「行灯の轆に入り、提灯に目鼻を書き、竹棒で中から突き上げ、手足を動かす」云々と説明を付す。手品というより子供だましの隠し芸だが、酒席を盛り上げるハウツー本も種々出回った。(『手妻早伝授』)

あんどん  
行灯の轆に入り、提灯に目鼻を書き、竹棒で中から突き上げ、手足を動かす。手品というより子供だましの隠し芸だが、酒席を盛り上げるハウツー本も種々出回った。(『手妻早伝授』)



■ 庶民の風物詩——四季折々の庶民生活を俳諧と挿絵で豊かに描く。画面左は七夕の図。七夕の夜は、屋根より高く掲げられた笹竹の擦れ合う音が街中を埋め尽くした。梶の葉に願い事を書くなど七夕飾りをする子供も楽しげだ。(『俳諧図会』)



俳諧図会  
あんどん  
行灯の轆に入り、提灯に目鼻を書き、竹棒で中から突き上げ、手足を動かす。手品というより子供だましの隠し芸だが、酒席を盛り上げるハウツー本も種々出回った。(『手妻早伝授』)